

農林水産業功労者

部門	氏名（住所）	受賞理由
水産	いたくら たかし 板倉 高司 (岩美町)	<p>【経歴】</p> <p>H5年～H25年 網代港漁業協同組合理事 H9年～現在 網代港底曳船主会会長 H24年～現在 鳥取県沖合底曳網漁業協会副会長 H25年～R6年 鳥取県漁業協同組合網代港支所 運営委員長 H26年～現在 鳥取県小型いかつり漁業協会副会長 H27年～現在 鳥取県漁業無線局監事 H28年～R6年 鳥取県漁業協同組合副組合長</p> <p>【功績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 昭和43年から沖合いか釣り漁業に従事し、昭和63年より沖合底曳網漁業の経営者となり船長を務められた。合併前の網代港漁業協同組合の監事、理事を歴任し、平成9年より網代港底曳船主会会長に就任。現在に至る。 合併後は鳥取県漁業協同組合網代港支所の運営委員長として地元に貢献するほか、鳥取県漁業協同組合の副組合長に就任するなど、経営者としてのみならず網代地区の代表として貢献されている。 船舶搭載設備においてもいち早く冷凍設備を導入するなど、積極的に経営の安定化を図ることに尽力された。
農産園芸	きしだ よしと 岸田 佳人 (倉吉市)	<p>【経歴】</p> <p>H28年～R6年 倉吉市農事組合 会長 H28年～R6年 JA鳥取中央農事組合 会長 現在 古川沢農事組合長、倉吉梨生産部 副部長、 上北条コンバイン組合 組合長、ロールベーラー組合 組合長、上北条土地改良区 総務会計担当理事、北条水系土地改良区 総括監事、 上北条財産区管理委員会 副会長、農業共済河北地区総務委員等</p> <p>【功績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 20代の頃から青年部や農事組合等の活動に積極的に参加され、特に果樹の沢山団地の造設に関しては、倉吉市役所・JA鳥取中央・建設会社等の関係機関との仲介役として尽力された。 地元の農地を荒廃させない・地域の農業を守るという想いで、行政・農業共済・土地改良区・農事組合等において積極的に参加・活動をされ、JA鳥取中央農事組合の会長及び倉吉市農事組合の会長として平成28年から令和6年までの9年間の長きにわたり尽力をされた。

部門	氏名（住所）	受賞理由
農産	たなか ともひさ 田中 朝久 (北栄町)	<p>【経歴】</p> <p>H13～R7 大倉土地改良区理事長 H14～H28 原西部営農組合組合長 H27～R3 鳥取県土地改良事業団体連合会代表監事 H18～現在 北栄町大型機械管理組合組合長 H31～現在 原農村資源保全協議会代表 R2～現在 大栄地区大豆コンバイン組合組合長</p> <p>【功績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 13 年 4 月に大倉土地改良区理事長に就任以来、県営大倉地区 土地改良総合整備事業の推進と、21 世紀型水田農業モデルほ場整備促進事業の達成に向けて尽力され、農地集積と低コスト稻作農業を実現された。 地元要望に応えて、各種事業採択に向けて尽力され、平成 20 年 4 月から農地・水・環境保全向上対策事業における活動組織の副代表を務め、令和元年からは多面的機能支払交付金における活動組織の広域化に積極的に取り組み、北栄町の広域化を達成させる等、貢献された功績は多大である。 スマート農業の推進にも力を入れており、水田の自動給水化に向けた実証等、豊富な経験と卓越した指導力を発揮された。 自身が所属する営農組合や大豆コンバイン組合では、水稻・麦・大豆による水田の高度利用や団地化、生産性向上に向けた営農技術、機械導入等の取組に尽力された。
畜産	とりかい いくこ 鳥飼 育子 (倉吉市)	<p>【経歴】</p> <p>H21～H28 和牛生産部役員 H21～R6 和牛生産部女性グループ代表 H6～R 元 民生委員 H14～R 元 鳥取県指導農業士</p> <p>【功績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 47 年前、繁殖牛（1頭）から徐々に増頭され、肥育、繁殖合わせて 200 頭の規模となった。自ら人工授精を行い母牛の血統に合わせた計画交配と、一貫経営のメリットを生かした「質・量」兼備の牛づくりに加え、自給飼料生産による生産コスト低減に努め、高い収益性を確保した経営を継続されている。 和牛生産部活動では、役員や女性グループ代表を長きにわたって務められ、女性の生産者を牽引し、まとめて来られた。 地元小学生の 4 年生を対象に食育教育の一環として「食」（命をいたたく事）の意味と重要性についての学習や飼育管理研修として共進会への出品を続けてこられ、その成果は平成 26 年の鳥取県畜産共進会でグランドチャンピオンの獲得へと繋がっている。 平成 19 年に開催された第 9 回全国和牛能力共進会鳥取大会では県代表として出品し、開会式では出品者を代表して選手宣誓を務める。更に、地元の民生委員として活躍され、平成 28 年には厚生労働大臣表彰、令和元年には藍綬褒章を受賞された。

部門	氏名（住所）	受賞理由
農産	はやしばら ひろし 林原 寛 (米子市)	<p>【経歴】</p> <p>H19 株式会社かめはま設立 H19～現在 代表取締役 H20～H28 鳥取県指導農業士 ～現在 米子市農業再生協議会 幹事</p> <p>【功績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年で就農年数 53 年と長きにわたり農業に従事され、現在は米子市淀江町小波で、平成 19 年 1 月に設立された農業生産法人「株式会社かめはま」の代表取締役として、鳥取県の大豆の採種事業に取り組み、効率的な土地利用で、種子の安定生産に貢献されている。 会社の設立にあたっては、転作制度の変化に伴い、水稻の他に大豆の生産を本格的に取り組んでいこうという気運のもと、忙しい農作業の合間を縫って先進地視察を行うなど、県や市、農協などの関係機関と連携をとりながら、地域の方々とも様々な検討を重ねるなどして尽力された。 平成 20 年から平成 28 年までの間は、鳥取県指導農業士として活動され、農業の担い手の支援などに積極的に取り組んでこられた。
水産	むらかみ かずお 邨上 和男 (鳥取市)	<p>【経歴】</p> <p>H16～H18 湖山池漁業協同組合 理事 H19～R6 湖山池漁業協同組合 代表理事組合長 H26～R6 全国内水面漁業協同組合連合会 副会長理事</p> <p>【功績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 16 年から湖山池漁業協同組合理事を、平成 19 年から令和 6 年にご逝去されるまで、湖山池漁業協同組合代表理事組合長を務められるなど、長きに渡って湖山池の再生に尽力された。 平成に入り湖山池では漁業不振が深刻な問題となる中、邨上組合長は組合員を守るためシジミ漁業の開始を目指し、湖山池の再生に着手された。 試行錯誤の末、シジミの繁殖に必要不可欠な海水を導入するため長い年月をかけて湖山池の水門開放を県に働きかけ、時には厳しい情勢になりながらも、全国内漁連の振興大会に陳情等、湖山池を後世に残すために、どんな難題にも精力的に活動し、平成 24 年に水門の全開放が実現された。 取り組みが実を結び平成 26 年シジミ漁業が開始され、念願だった湖山池のしじみ漁業の再生を叶えられた。

部門	氏名（住所）	受賞理由
水産	やまおか ひろひと 山岡 寛人 (岩美町)	<p>【経歴】</p> <p>H4～R5 鳥取県指導漁業士 H28～R7 鳥取県漁業協同組合 代表監事 H29～現在 日本漁船保険組合運営委員</p> <p>【功績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学卒業後、水産庁所属船の航海士として遠洋漁業の取締船で北洋、南太平洋を航海していたが、昭和54年、実家の家業である底曳網漁船を継ぐため帰郷し、昭和61年には船主・船長となられた。 平成21年には株式会社信勝丸漁業を立ち上げ代表取締役及び船長に就任し、沖合底曳網漁船の経営を開始された。長年培った経験と技術は若手の船員や外国人技能実習生にも伝承され、船員の能力向上にも貢献してきた。また、減速航行への取組み、機器のメンテナンス、漁具の修繕など、自ら行える事は積極的に行い、経費の節減に努め、不安定な水揚の中でも安定した経営を維持されている。 船長を引退後も沖合底曳網漁業の船主として鳥取県漁業協同組合の監事をはじめとした様々な役職をこなすとともに、漁業士としての広報活動や船員災害防止の指導員など漁業の安全活動にも寄与し、漁業への貢献度は非常に高い。
農産園芸	やまさき としひろ 山崎 俊宏 (鳥取市)	<p>【経歴】</p> <p>H4.4 有限会社みどり農産設立 H4.4～現在 代表取締役 H7～H12、H31～R3 鳥取県農業法人協会 会長 H8～H11 全国農業法人協会 理事</p> <p>【功績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成4年4月に立ち上げた有限会社みどり農産の代表取締役として、30年以上にわたり地域に根差した農業経営を行われた。 水稻を中心にアスパラガス・白ネギの生産販売を行う傍ら、日常のなかで農業を体験してもらう活動として、収穫体験イベントや景観を重視したひまわり栽培などにも精力的に取り組まれ、地域と密接に関わらなければならない農業だからこそ、興味と関心をもてるような内容を外に向けて発信されている。 平成7年6月30日から合計4期、のべ7年間にわたって鳥取県農業法人協会の会長を務め、全国の経営体の優良事例を調査・視察し、県内の農業法人会員の経営発展に尽力された。